

# 機器接続マニュアル



## 機器接続マニュアルに関する注意事項

本書を正しくご使用いただくために、ご使用前に必ず「マニュアルPDFをダウンロードする前に」をお読みいただき、「はじめに(商標権などについて、対応機種一覧、マニュアルの読み方、表記のルール)」マニュアルをダウンロードしてください。ダウンロードされたマニュアルは、必ずご利用になる場所のお手元に保管し、いつでもご覧いただけるようにしておいてください。

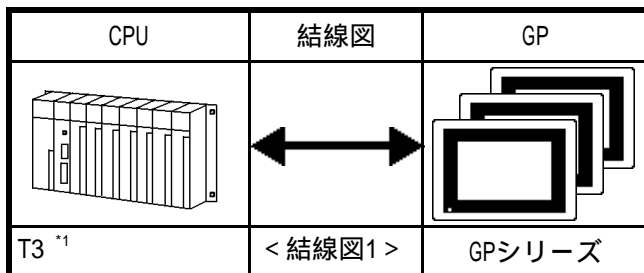
## 5.6 (株)東芝製 PLC

### 5.6.1 システム構成

(株)東芝製 PLC と GP を接続する場合のシステム構成を示します。

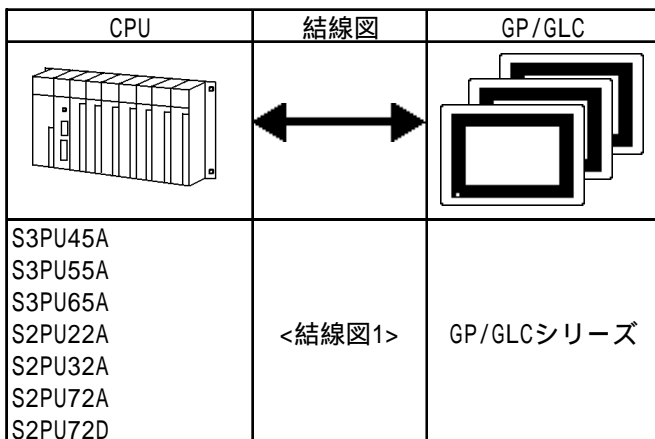
<結線図> は5.6.2 結線図をご参照ください。

PROSEC Tシリーズ (CPUユニット上のリンク I/F 使用)



\*1 CPUモジュールのコンピュータリンク用ポートに接続します。

Vシリーズ (CPUユニット上のリンク I/F 使用)

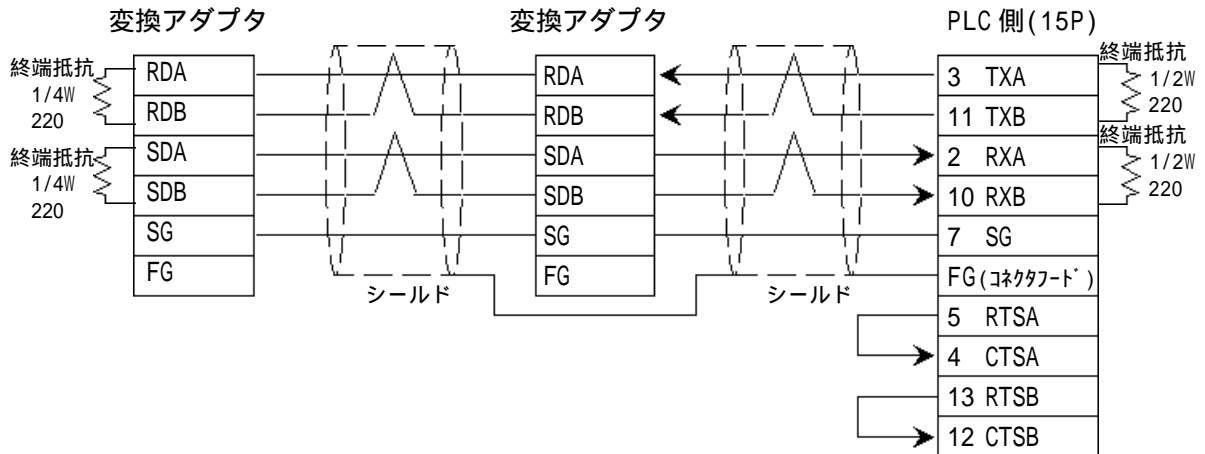


## 5.6.2 結線図

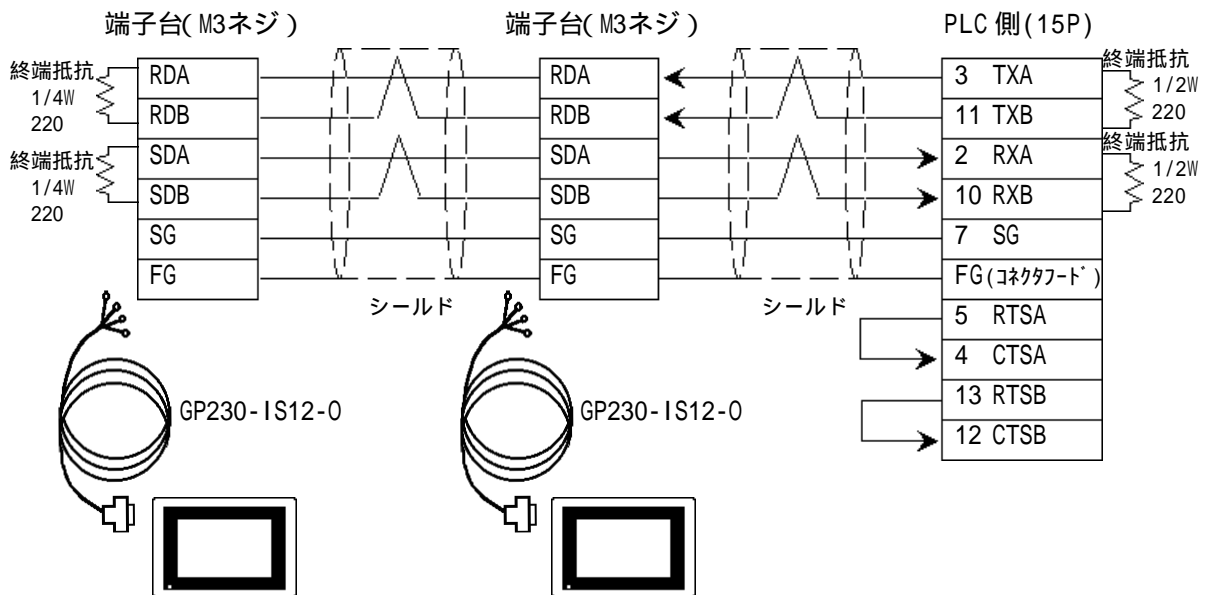
以下に示す結線図と(株)東芝の推奨する結線図が異なる場合がありますが、本書の結線図にてご使用ください。

### < 結線図 1 >

- ・ (株) デジタル製 RS-422 コネクタ端子台変換アダプタ GP070-CN10-0 を使用する場合

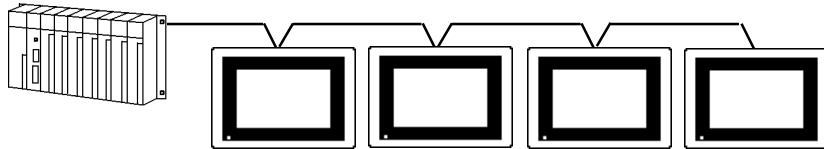


- ・ (株) デジタル製マルチリンク用ケーブル GP230-IS12-0 を使用する場合

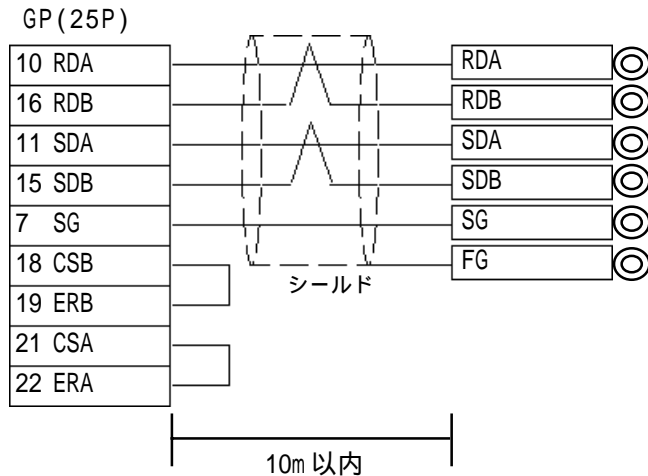


- 強制** ・ PLC本体のFG端子はD種接地を行ってください。  
詳細はPLCのマニュアルをご参照ください。

- 重要** ・ 伝送ケーブルのシールド線は、一括してPLC側のFGに接続してください。
- ・ GP230-IS12-0のケーブルのFG端子は、GPのFGと接続されていません。
  - ・ ケーブルの両端に位置するGPとPLCには、終端抵抗を付けてください。
  - ・ RS-422接続の場合、ケーブル長は(株)東芝のマニュアルを参照してください。
  - ・ PLCは原則として、回線の両端どちらかに接続してください。



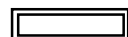
- ・ 接続ケーブルを加工される場合、日立電線製CO-SPEV-SB(A) 3P\*0.5を推奨します。  
そのケーブルの結線を以下に示します。GPから端子台につながるケーブルは、10m以内としてください。



### 5.6.3 使用可能デバイス

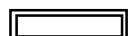
GPでサポートしているデバイスの範囲を示します。

PROSEC Tシリーズ

 は、システムエリア、通信情報の格納アドレスに指定可能

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	備考	
外部入力	X0000 ~ X255F	XW000 ~ XW255	L/H	
外部出力	Y0000 ~ Y255F	YW000 ~ YW255		
内部リレー	R0000 ~ R511F	WR000 ~ WR511		
特殊リレー	S0000 ~ S255F	SW000 ~ SW255		
リンクレジスタリレー	Z0000 ~ Z511F	—————		
リンクリレー	L000 ~ L255F	—————		
タイマ(接点)	T000 ~ T255	—————		
カウンタ(接点)	C000 ~ C255	—————		
タイマ(現在値)	—————	T000 ~ T511		
カウンタ(現在値)	—————	C000 ~ C511		
データレジスタ	—————	D0000 ~ D8191		 Bit 15
リンクレジスタ	—————	W0000 ~ W1023		 Bit 15
ファイルレジスタ	—————	F0000 ~ F8191		 Bit 15

Vシリーズ

 は、システムエリア、通信情報の格納アドレスに指定可能

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	備考
外部入力	X00000 ~ X8191FF	XW0000 ~ XW8191	L/H
外部出力	Y00000 ~ Y8191F	YW0000 ~ YW8191	
補助リレー	R00000 ~ R4095F	RW0000 ~ RW4095	
特殊リレー	S00000 ~ S511F	SW000 ~ SW511	
データレジスタ	—————	D00000 ~ D4095	



・ デバイス範囲はご使用のCPUで異なる場合があります。各CPUのデバイス範囲は、(株)東芝製のPLCマニュアルでご確認ください。

**重要**

- PLCのI/Oやコントローラ内のメモリは変数として扱われています。その中で、GPで扱える変数は以下の通りです。従って、GPでPLCの各変数を扱う場合は、以下の変数をラダープログラムを介してご使用ください。GPのデバイス名と表記が異なる変数がありますのでご注意ください。

GPデバイス名		PLCのコントローラメモリの変数名	詳細
X, XW	←→	I/O変数(IQ)	X, XWとY, YWは同じ領域です。
Y, YW			
R, RW	←→	データレジスタ変数(DW)	R, RWデバイスとDデバイスは同じ領域です。GPよりビット
D			
S, SW	←→	特殊レジスタ変数(SW)	

上記デバイス以外に、ローカル変数、コントローラグローバル変数、ステーショングローバル変数が存在しますが、GPではアクセスできません。

### 5.6.4 環境設定例

(株)デジタルが推奨するPLC側の通信設定と、それに対応するGP側の通信設定を示します。

#### PROSEC Tシリーズ

GPの設定		CPUモジュールの設定	
伝送速度	19200bps <sup>1</sup>	伝送速度	19200bps <sup>1</sup>
データ長	8bit	データビット	8bit
ストップビット	2bit	ストップビット	2bit
パリティビット	奇数	パリティビット	奇数
制御方式	ER制御	_____	
通信方式	4線式	_____	
号機No.	1	ステーションNo.	1

\*1 PLCの仕様上、PROSEC T3がVer.1.4未満の場合、9600bps以下で通信可能です。

#### Vシリーズ

GPの設定		PLCの設定	
伝送速度	19200bps	伝送速度	19200bps
データ長	8bit	データ長	8bit
ストップビット	2bit	ストップビット	2bit
パリティビット	奇数	パリティ指定	奇数
制御方式	ER制御	_____	
通信方式	4線式	_____	
号機NO.	1	ステーションNO.	1

MEMO

このページは、空白です。  
ご自由にお使いください。

